

プラスチックボードドレーン工法

プラスチックボードドレーン工法は、排水材として合成樹脂と不織布の複合素材(PBD材)を用いた鉛直ドレーン工法の一つです。PBD材は圧密沈下に対する順応性が高いため、高含水比の軟弱地盤の改良に適しています。

特長

小型の機械で連続的に打設できるため、施工能率が優れています。

PBD材は、高い透水性($k = 10^0 \sim 10^{-1} \text{ cm / sec}$)を有しています。

PBD材の施工は圧入工法によるため、低振動・低騒音の施工が可能です。

施工手順

ロール上のドレーン材を
マンドレルにセット

↓

アンカープレート装着

↓

マンドレルを所定深度に圧入

↓

マンドレル引き抜き

↓

地表部でドレーン材切断

↓

次打設

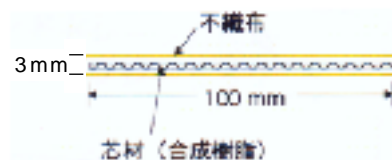
施工機械



打設状況



ドレーン材(幅100×厚3mm)



ドレーン材断面(例)

施工実績

工事名	工期	施工場所	発注者	目的	ドレーン施工延長 / 打設深度 / 対象土量
大竹港地盤改良工事	92.5 ~ 93.3	広島県	広島県	圧密促進・地盤強度増加	71,000m / 10.5m / 143,200m ³
東京空港地盤改良工事	92.4 ~ 94.10	東京都	運輸省	圧密促進・地盤強度増加	1,362,000m / 12.5m / 1,362,200m ³
北九州市上葛原造成工事	97.6 ~ 99.5	北九州市	上葛原土地区画整理組合	圧密促進・地盤強度増加	130,000m / 4.5m / 130,000m ³
摩耶岸壁地盤改良工事	97.8 ~ 97.11	神戸市	神戸港厚生サービス協会	圧密促進・地盤強度増加	362,000m / 12.7m / 288,300m ³